

平成 28 年度ごみ・資源物の排出量等について

1 ごみ・資源物の排出状況

家庭系の「もえるごみ」は、前年度から 2,320 トン減少した。その一方で、事業系の「もえるごみ」は、前年度から 528 トン増加した。「もえないごみ」及び資源物（「特定品目」除く）は、前年度よりも減少した。家庭系の「もえるごみ」は、過去 5 年間で最少となった。

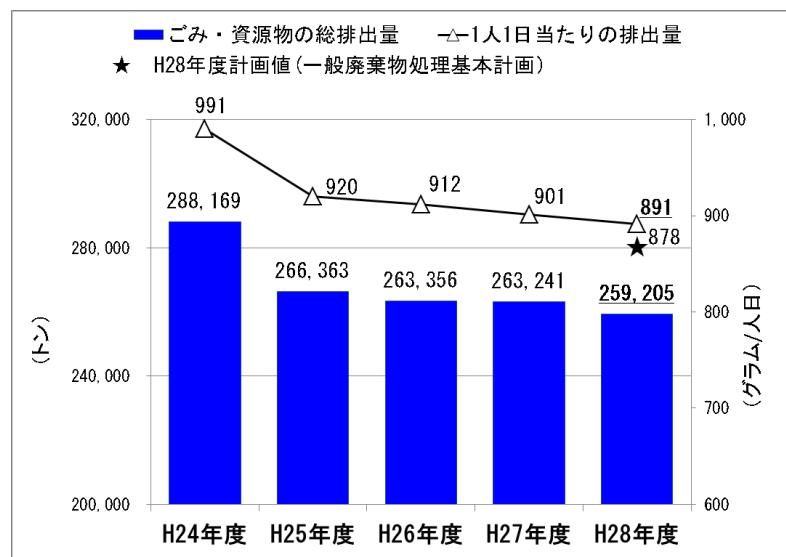
その結果、集団回収量や拠点回収量の減少分も含めると、ごみ・資源物総排出量では前年度から 4,036 トンの減少となり、合併以降の最少値を更新した。

(単位:トン)

区分		H28 年度	H27 年度	前年比	
ごみ	もえるごみ	215,857	217,649	△1,792	△0.8%
	家庭系	137,260	139,580	△2,320	△1.7%
	事業系	78,597	78,069	528	0.7%
	もえないごみ	5,489	6,038	△549	△9.1%
	連絡ごみ等	2,866	2,822	44	1.6%
ごみ 計		224,212	226,509	△2,297	△1.0%
資源物	びん	4,374	4,601	△227	△4.9%
	かん	3,010	3,247	△237	△7.3%
	ペットボトル	1,603	1,603	0	0.0%
	プラスチック製容器包装	6,641	6,932	△291	△4.2%
	特定品目	400	399	1	0.3%
	魚アラ	5,457	5,500	△43	△0.8%
	資源物 計	21,485	22,282	△797	△3.6%
ごみ・資源物 計		245,697	248,791	△3,094	△1.2%
集団回収		11,763	12,681	△918	△7.2%
拠点回収		1,745	1,769	△24	△1.4%
ごみ・資源物総排出量		259,205	263,241	△4,036	△1.5%

2 1人1日当たりの排出量等の推移

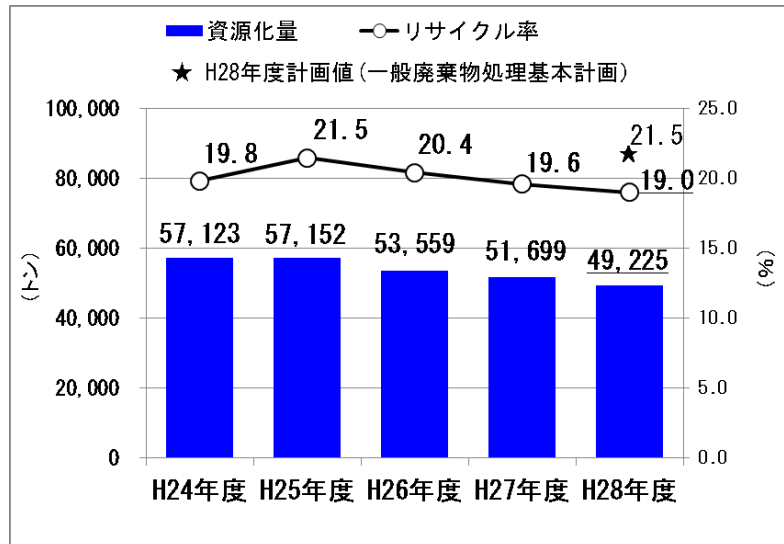
1人1日当たりの排出量は、891グラムで前年度より10グラム減少した。前年度に引き続き減少したため、合併以降の最少値を更新した。



3 リサイクル率等の推移

リサイクル率は、前年比で0.6ポイント低下した。これは、「びん」、「かん」、「プラスチック製容器包装」等の資源物、集団回収量、西部清掃工場から発生した溶融後資源等が減少したためである。

※ 「リサイクル率」の算定方法：(資源化量÷総排出量)×100



4 最終処分量の推移

最終処分量は、前年比で55トン増加した。これは下水道処理施設から発生する沈砂等が増加したためである。

